

# フィールドスタディー(平成25年.秋)

平成25年度大東文化大学秋期オープンカレッジ(東松山校舎)

## 古代埼玉のものづくりのムラ

引率講師：坂本 和俊 先生(講座講師)

☆日時 平成25年11月16日(土) ※雨天決行

》集合場所	◎第一集合地 東松山校舎・管理棟前駐車場9:00集合 ◎第二集合地 東上線高坂駅西口ベルビュー(パン屋さん)前9:10集合 ※フィールドスタディーの参加・不参加、及び集合地を11月9日(土)までにご提出ください。 (当日不参加になった場合は必ずセンターにご連絡ください。)
》昼食	各自必ずご持参ください。
》日程(予定)	9:00東松山校舎出発→9:10高坂駅出発→(休憩:上里SA)→土師神社・本郷埴輪窯跡→藤岡歴史館→七輿山古墳(昼食)→金鑽神社→有氏神社→(休憩:豆庵)→神川町中央公民館展示室→末野窯跡→高坂駅着(17:00)→大東文化大学東松山校舎 ※道路状況他により予定時間通り行かない場合があります。 予めご了承ください。

ピル

ありうじ

本郷埴輪窯跡

藤岡市本郷所在

正面は本郷埴輪窯跡の覆屋













国指定史跡となっている

国指定史跡

## 本郷埴輪窯址

所在地 藤岡市本郷三〇四一  
所有者 土師神社

明治三十九年に東京帝国大学教授柴田常恵氏により発見され、昭和十八年三月、十九年三月に群馬大学教授尾崎喜左雄氏により発掘調査された。

埴輪窯は登窯で、長さ五・五メートル、幅一・八メートルの大きさである。中から人物、馬、家、太刀、矛、盾などの埴輪が出土している。

昭和十九年十一月十三日、史跡として文部大臣より指定。

藤岡市教育委員会



標柱には「史蹟 本郷埴輪窯跡」とある





昭和30年に立てられたようだ





これが覆屋の中の窯跡





土師神社(どしじんじゃ)

藤岡市本郷所在

前方の木々のところが本郷埴輪窯跡から見た土師神社





境内へ進む





これは割拝殿と云うらしい



割拝殿から社殿を見る





これが拝殿/左手に相撲額が飾られている





右手が本殿、左手が拝殿





これは神楽殿





ここが「土師の辻(相撲辻)」と呼ばれる相撲の土俵









## 土師の辻

所在地 藤岡市本郷一六四  
所有者 土師神社

相撲辻とは、屋外で行った相撲の土俵とその場所を意味している。土壇（土俵）は伏せたすり鉢状で、高さ一六〇センチ、上円部径四九五センチ、底部一三〇センチ、傾斜二二度、斜長四五〇センチを測る。

「日本三辻の一」と称される。他の二辻は摂津国（大阪）住吉神社と能登国（石川）羽咋神社である。

明治以降は使用されていないが、それ以前は出世力士が披露相撲を行うのが例で勲進相撲が奉納されたが、幕内力士でなければ相撲壇にあがれなかった。

藤岡市教育委員会





藤岡歴史館(藤岡市埋蔵文化財収蔵庫)

ここは藤岡歴史館









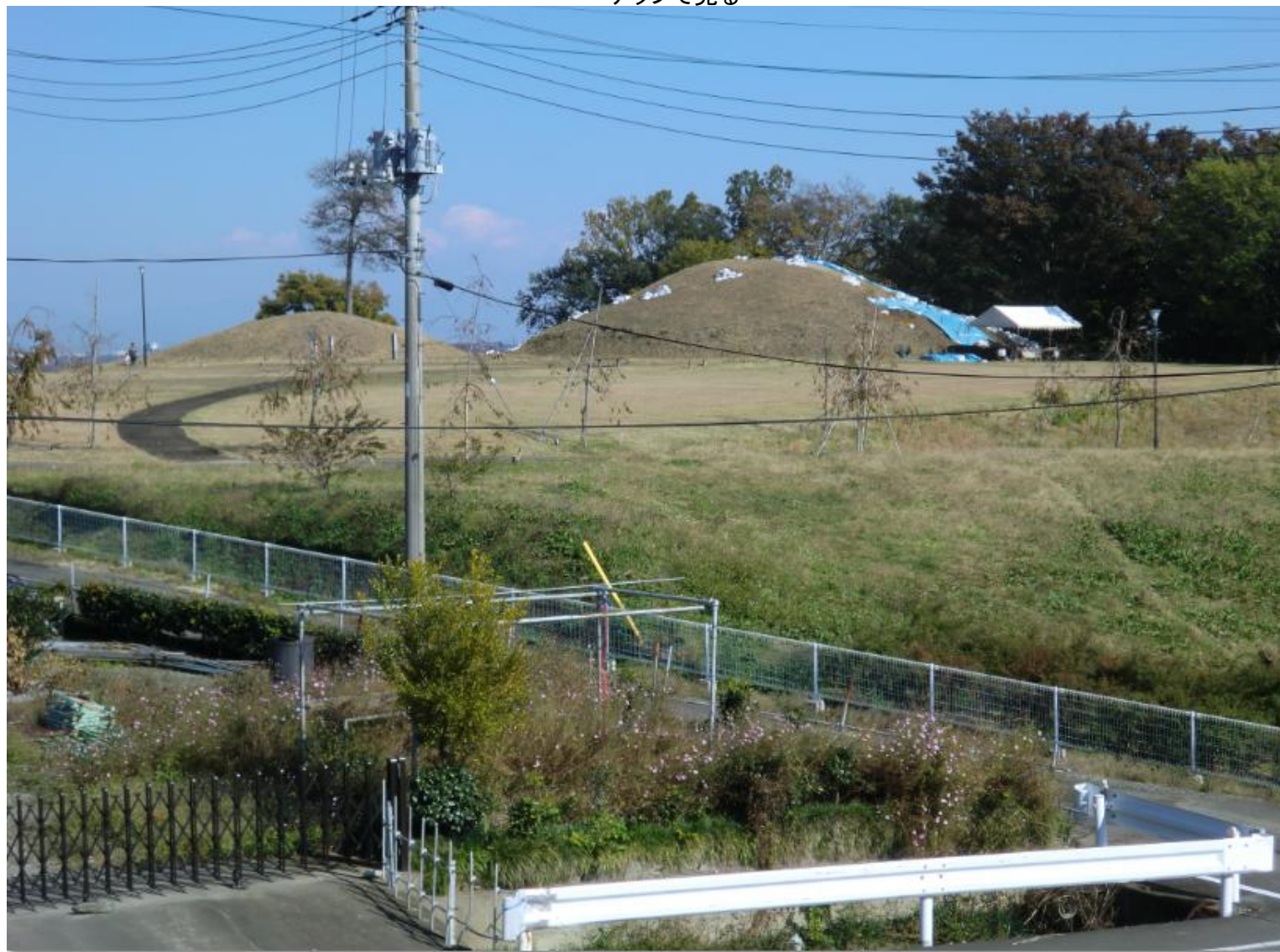




ここからすぐ近くに皇子塚古墳(右手)、平井地区1号古墳(左手)が見えた



アップで見る





七興山古墳(ななこしやまこふん)

藤岡市上落合所在

この門は取り壊された周溝の土手の一部で造られているようだ/「七興の門」とは併設の展示室のこと



七興山古墳全景/三段築成の前方後円墳/6世紀前半の築造/左手が後円部、右手が前方部







## 国指定史跡 七興山古墳

所在地 藤岡市上落合831-1ほか  
所有者 国・藤岡市  
指定日 昭和2年6月14日  
追加指定 平成8年9月26日



古墳は、鑄川と鮎川に形成された舌状の河岸段丘に造られた三段築成の前方後円墳である。大きさは全長145m、後円部径87m、前方部幅106m、前方部と後円部の高さは16mを計る。

4回にわたる確認調査の結果、中堤帯や外堤帯と呼ばれる土手状の堤を境に内側と外側に周溝が巡り、三重目の溝、葺石、埴輪列が確認された。なお、埴輪列は中堤の平坦面に2列、三重目の溝は前方部前面からコの字状に検出されている。出土遺物は円筒埴輪・朝顔形埴輪・人物・馬・盾などがある。特に、円筒埴輪は径40cm、高さ1mを越す7条突帯の大型品で、貼付口縁と低位置突帯の特徴がある。

古墳の埋蔵施設は不明であるが、出土遺物から築造時期は6世紀前半に推定され、6世紀代の古墳としては東日本最大級の前方後円墳である。

藤岡市教育委員会



二重の周溝が巡っていたという





ここが後円部





ここから後円部に登ってみる





中央前方に石造物が立っている





国指定史跡

# 七輿山古墳

所在地 藤岡市上落合八三一一一ほか  
所有者 国ほか

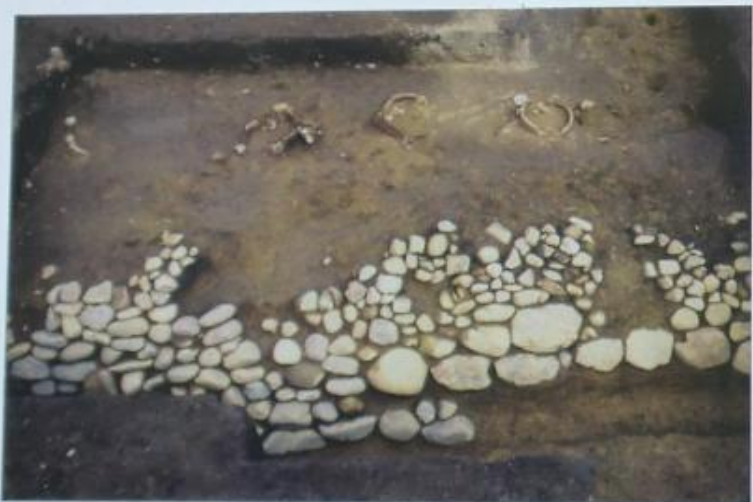
この古墳は、周辺の地形を利用して造られた三段築成の前方後円墳です。大きさは全長一四六メートル、後円部径八七メートル、前方部幅一〇六メートル、前方部と後円部の高さは一六メートルです。

四回にわたる範囲確認調査で、墳丘の周りに内堀・中堤帯・外堀・外堤帯・埴輪列が明らかになりました。また、前方部前面にはコの字状に三重目の溝が巡っています。出土遺物は円筒埴輪、朝顔形埴輪のほか人物・馬・盾などの形象埴輪があります。特に、円筒埴輪は七条凸帯を有し、径五〇センチ、高さ一・一メートルの大型品です。古墳の埋葬施設は不明ですが、出土遺物から六世紀前半に造られたものと考えられます。

藤岡市教育委員会



七輿山古墳航空写真



七輿山古墳中堤帯 葺石・埴輪列



これは中腹にある五百羅漢の石像/明治期の廃仏毀釈により全て首から上が壊されて無くなっている





先程の石造物は六面幢(六地藏)であった





前方は後円部の墳頂





ここが後円部の境頂





後円部墳頂から北方向を見るとコンビニの裏手に伊勢塚古墳が見える





アップで見る  
↓





後田部から前方部を見る





左手法面を見る





振り返って後円部を見る





「くびれ部」から前方部を見る





ここは前方部の境頂





振り返って前方部から「くびれ部」方向を見る





右手法面を見る





前方部先端下から前方部墳頂を見上げる/右手に石積みの段丘がある





アップで見る





西側から前方部を見る





南西側から見る





墳丘の南面を西側から東方向を見る





南側から前方部を見上げる





南側から「くびれ部」を見上げる





南側から後円部を見上げる





墳丘の南面を東側から西方向を見る





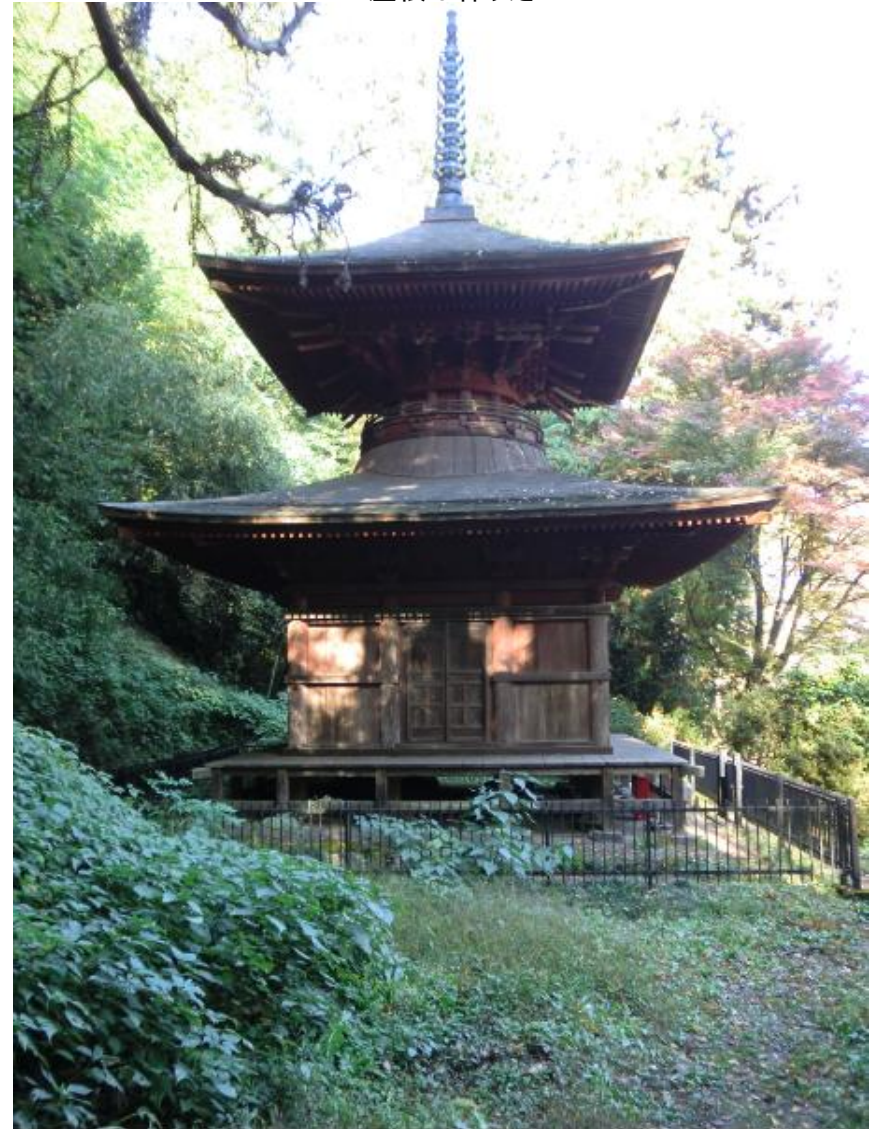
金讀神社(かなさなじんじゃ) 児玉郡神川町二ノ宮所在  
正面は多宝塔/室町時代(1534年建立)/重要文化財







屋根は柿吹き





かなさなじんじやたほうとう  
金鑽神社多宝塔

所在地 児玉郡神川村二の宮

金鑽神社の境内にあるこの多宝塔は、三間四面のこけら葺き、宝塔（円筒形の塔身）に腰屋根がつけられた二重の塔婆である。

天文三年（一五三四）に阿保郷丹莊の豪族である阿保あほ彈正全隆だんじょうぜんりゅうが寄進したもので、真柱まんげどに「天文三甲午八月晦日、大檀那阿保彈正全隆」の墨書銘がある。

この塔は、建立年代の明確な本県有数の古建築であるとともに、阿保氏に係わる遺構であることも注目される。塔婆建築の少ない埼玉県としては貴重な建造物であり、国指定の重要文化財となっている。

昭和五十九年三月

神川町



中央間棧唐戸/脇間は棧付窓/中備は間斗束/柱は円柱/組物は出組





武蔵七党の一つ丹党の阿保氏が寄進したものとされる





亀腹部分は漆喰ではなく、豎板張りとなっている/平三斗上に縁を設ける





こちらに社殿がある/手前の橋は、前九年の役を鎮圧するために出兵した源頼家・義家がかけた橋と伝えられている「義家橋」□





金かな 鑽さな 神じん 社じゃ

所在地 児玉郡神川村二の宮

金鑽神社は、旧官幣中社で、延喜式神名帳にも名を残す古社である。むかしは武蔵国二の宮とも称された。地名の二の宮はこれによっている。

社伝によれば、日本武尊が東征の帰途、伊勢神宮で伯母の倭姫命やまとのひめのみことより賜った火打金を御霊代みたましろとして、この地の御室山（御岳山）に奉納し、天照大神と素戔嗚命を祀ったのが始まりとされている。

鎌倉時代には、武蔵七党の一つ、児玉党の尊信が厚く、近郷二十ニカ村の總鎮守として祀られていた。江戸時代には徳川幕府から御朱印三〇石を賜り、別当の一乗院とともに栄えた。

境内には、国指定重要文化財の多宝塔や、平安時代の後期、源義家が奥州出兵のため戦勝祈願を当社にしたときのものという伝説の遺跡、駒つなぎ石、旗掛杉、義家橋などがある。

なお、この神社にはとくに本殿をおかず、背後の山全体を御神体としている。旧官・国幣社の中で本殿がないのはここのほか、全国でも大神神社（奈良県）と諏訪神社（長野県）だけである。

昭和五十九年三月

神川町



拜殿





拝殿





拝殿





中門/本殿は無く、後ろにある御室ヶ嶽(みむろがだけ)を御神体(神体山)としている/自然そのものを神体とする古神道(こしんとう)の全国でも珍しい神社の一つ





有氏神社(ありうじんじゃ)

児玉郡神川町下阿久原(しもあぐはら)所在

正面の木々のところが有氏神社









# 有氏神社の盤台祭り

所在地 埼玉県児玉郡神泉村大字下阿久原二十四番地 有氏神社  
指 定 平成四年三月十一日 埼玉県指定無形民俗文化財

有氏神社は、武蔵七党の一つである児玉党の祖、有道惟行をまつると伝えられている。地元では、有氏は有道の転訛であるといひ、祭りを称して「アリツツアマの祭り」とか「裸祭り」とも呼んでいる。この祭りは正徳三年（一七一三）に始まったとされ、祭日は陰暦九月二十九日であったが、現在は十一月十九日に行われている。

祭りの特色は、氏子が毎年交替で祭り番となり、祭りに関するすべてを行うことにある（これを頭屋制という）。祭り当日は、頭屋宅で赤飯（小豆飯）とシトギ（水に浸しておいた粳米を白でついたもの）を作り、赤飯は大きな盤台に盛り付けておく。準備が終ると、神官を先頭に神社へ行き、社前で祭典を執り行う。

祭典後、氏子たちはふんどし姿になつて盤台を高々と持ち上げ、「上げろ、下げろ」の掛け声も勇ましく神輿のようにもんで境内を練りながら、盤台の中の赤飯を四方八方にまき散らす。参詣者は争つてこの赤飯を受け取り、オミゴクと称していた。この間、約四、五分の短い時間であり、赤飯をまき尽くすと、手しめをして祭りは終わる。

なお、この赤飯を食べるとその年の災厄からのがれることができ、お産は安産ですむという。このため、この祭りは安産祈願、子孫繁栄、疫病退散の祭りと言われている。

平成六年三月

埼玉県教育委員会  
神泉村教育委員会  
有氏神社裸祭保存会



有氏神社は武蔵児玉党の始祖である有道氏を祀ったものであるという





平成12年に造立された「児玉党祖有道惟行生誕千年記念碑」



アップで見る













## 有道氏の祖廟

武蔵野の開拓者、さらには、関東武士の元祖、として  
勇名を馳せた見玉党の開祖である有道一族の祖廟は、  
詳らかでない。しかれども、有道維行が朝廷の命により

長官を勤めた阿久原の牧近くには、有道氏を祭る有氏明  
神があり、古くより地域の住民によりお祀りされている。

日本古来の宗教観では、先祖霊や特別な功績を上げ尊  
厳な人々の霊を人格神として祭るのが自然である。

阿久原地区には、古くより、「有氏明神に隣接した北  
の位置にありし古い石塔を東北に移転した際に、人骨が  
発掘されこれは阿久原牧時代の有道氏一族の墓であろう」  
との言い伝えがあり、しかも、「有氏明神には御神体が存  
在しない」等のことより、有氏明神は、有道氏一族の霊域  
(墓地)に祠を建て、祭り始めたものであり、古くは霊域  
の重要な位置を占めたと推定される有氏明神に隣接した  
東北部の畑の中にある古石塔(地下に眠る遺骨)こそ有氏  
明神の御神体であるとの説がある。この石塔は、見玉党  
もしくは近在の有道氏一族の関係者によって、室町時代  
後期から江戸時代初期の間に建立されたものと推定され  
るが、品格の高い見事な石塔である。

今回、古石塔及び周辺土地の管理者であり、長年に渡  
り秩父瀬地域住民の中心となって有氏明神をお祀りして  
きた見玉党の流れを汲む浅見家二十一代当主新一氏のご  
尽力により、古石塔が整備復元されたことは、維新生誕  
千年を迎えるに当たり、誠に意味有るものと言えよう。  
今後、見玉党並びに有道氏に関係する方々はもとより、  
その恩恵を受けている地域の方々は、時に参拝し、武蔵  
野の開拓と土地生産性に基盤を置いた武家政治の確立に  
貢献した先祖の方々の往時を偲び、明日への活力として  
頂ければ幸いである。

平成十四年正月

記 見玉党末裔



児玉党もしくは近在の有道氏一族の関係者により室町時代後期から江戸時代初期の間に造立されたと推定される石塔/この地が阿久原の牧であった時代の有道氏一族の墓であったと伝えられる













神川町中央公民館展示室

ここは神川町中央公民館





展示室/「収蔵品展 中原・金屎遺跡 炭を焼き鉄を打つムラ」と冠されている









中原遺跡炭焼窯跡・女堀大溝

児玉郡神川町元阿保所在  
前方に炭焼窯跡がある





女堀大溝(おんなぼりおおみぞ)





横口付炭焼窯跡





横口





掘立柱建物跡





横口付炭焼窯跡



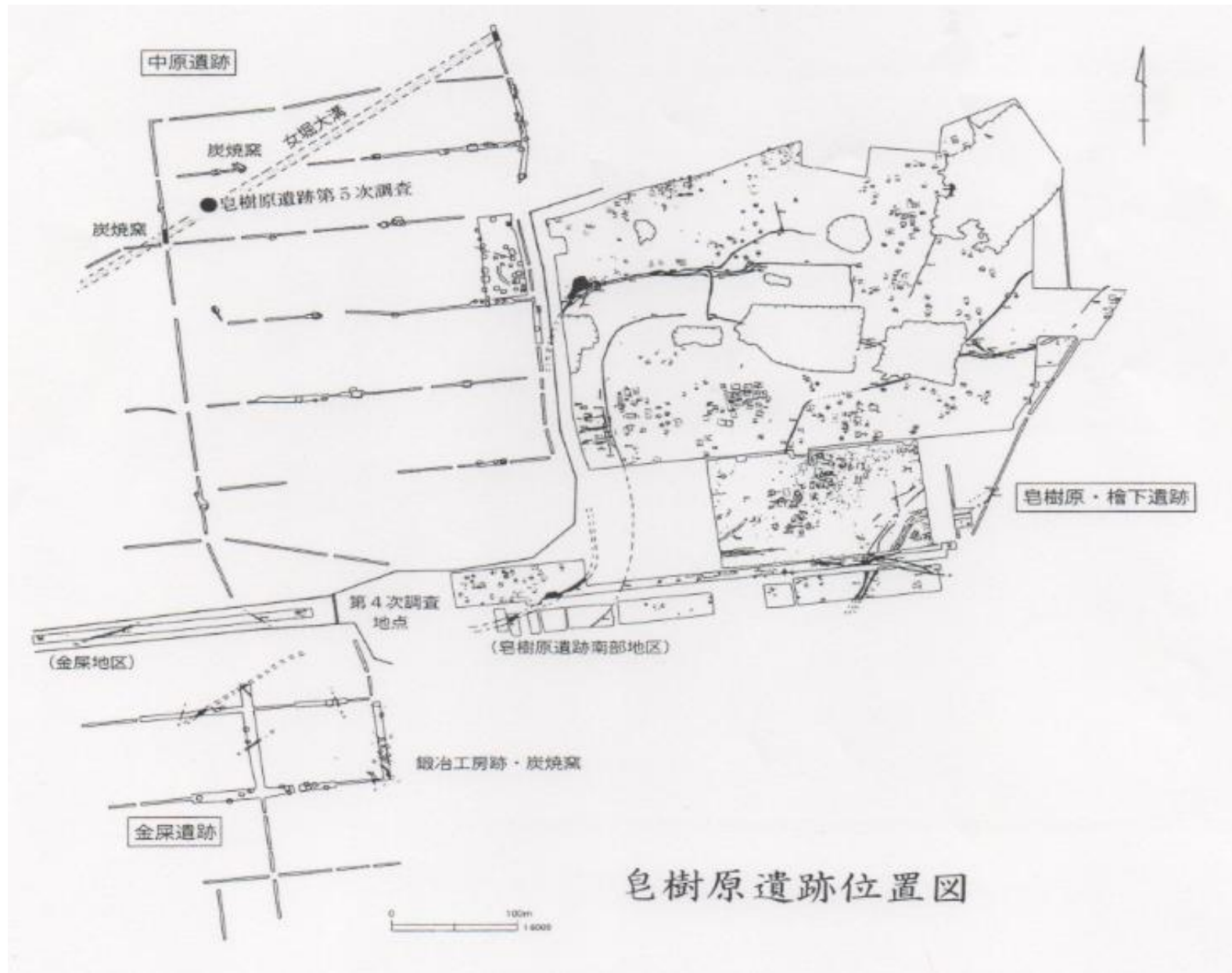


これらの遺構からこの地域が鉄の生産に関わっていることが明らかとなっている





参考資料



皂樹原遺跡位置図

←さいかちはら





第312図 女堀大溝の流路と周辺の遺跡